

保科百助の教育理念 ／実物を見て・触って・感じて

東御市教育委員会 田中浩江先生

実施日：令和4年6月20日（月）



東御市教育委員会の田中浩江先生に講義をいただいた。前半は保科百助先生について。百助先生の発行した「信濃公論」や直筆の書簡などの資料を多くお持ちいただき、興味深く拝見することができた。後半は大庭遺跡から出土した土器（縄文土器・土師器）を実際に見て、触り、その違いをまとめた。この「実物を観て、触れて、感じる」ということは保科百助先生の教育理念そのものであり、保科百助先生の理念は現代に通ずるものであることを再確認することができた。

【生徒の授業日誌より】

- 縄文土器と土師器を実際に触ってみて、思ったことなどを紙にまとめました。とても楽しい学習になりました。
- 本物の土器に触ったのは初めてでした。土器に触る機会はありませんでした。とても嬉しかったです。
- 土器は焼き方や入れるものが違うということを知りました。土師器にも種類がたくさんあり、焼く温度が低いとざらざらした感じになる。保科先生は小さいころから自由で行動力があり、考えがしっかりしていて人思いなのが本当に尊敬できる人だなと思います。保科先生の直筆の手紙があってびっくりしました。
- 五無斎先生が今まで何をしてきたのか細かく分かっていてすごいなと思いました。土器もいろいろな音や色も教えてもらい、勉強になりました。縄文土器なども触ったりしてすごかったです。初めて触らせてもらいました。ザラザラして重かったです。貴重な体験をありがとうございました。
- AとBの2つの土器を比較した。Aの土器はざらざらしていて砂が落ちたが、Bの土器はさらさらしていてAよりたくさん砂が落ちた。土器はすべて同じように見えても性質や触り心地や名前が違うということを知りました。